

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

<b>事業名</b>	独立行政法人国立美術館運営費交付金に必要な経費		<b>担当部署</b>	文化庁		<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成13年度		<b>担当課室</b>	長官官房政策課		政策課長 山崎 秀保	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	XⅢ-i 芸術文化の振興			
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	独立行政法人国立美術館法 第3条		<b>関係する計画、通知等</b>	中期目標、中期計画、業務方法書			
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に、3行程度以内)</b>	美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的とする。						
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	国立美術館は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を設置し、それぞれの美術館の理念、目的に基づいた調査結果や研究成果を基に、多様な鑑賞機会の提供としての展示事業や教育普及・研修事業、美術(映画を含む。)に関する作品その他の資料の収集・保管・修理等の事業を有機的・体系的に行う。						
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	5,773	5,859	5,973	7,784	7,313
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	5,773	5,859	5,973	7,784	7,313
		執行額	5,773	5,859	5,973		
	執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%			
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標(中期目標) ※数値で定量的に示される指標 平成21・22年度:第2期中期目標期間 平成23年度:第3期中期目標期間		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	○美術振興の中心的拠点としての多彩な活動展開 ・多様な鑑賞機会の提供など ・国民の美的感性の育成		成果実績	・多様な鑑賞機会の提供など 【所蔵作品展(目標値)】 平成21年度:展示替回数24回、開催日数1,082日、入館者数844,672(709,000人) 平成22年度:展示替回数22回、開催日数1,166日、入館者数1,051,827人(823,000人) 平成23年度:展示替回数19回、開催日数1,200日、入館者数864,514人(689,000人) 【企画展(目標値)】 平成21年度:開催回数36回、開催日数1,778日、入館者数3,582,458(2,519,000人) 平成22年度:開催回数41回、開催日数1,623日、入館者数3,450,921人(2,196,400人) 平成23年度:開催回数36回、開催日数1,849日、入館者数2,566,205人(1,926,600人) ・国民の美的感性の育成 【幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティストトーク等)】 平成21年度:実施回数766回、参加者数合計52,354人 平成22年度:実施回数667回、参加者数合計41,183人 平成23年度:実施回数671回、参加者数合計51,653人			
	○ナショナルコレクションの形成・継承 ・体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の充実を図る		成果実績	【美術作品の収集】 平成21年度:購入点数400点、寄贈点数229点、 平成22年度:購入点数286点、寄贈点数386点、 平成23年度:購入点数674点、寄贈点数1,213点、 【映画フィルムの収集】 平成21年度:購入本数1,194本、寄贈本数1,648本、 平成22年度:購入本数413本、寄贈本数852本、 平成23年度:購入本数291本、寄贈本数1,479本、			
	○美術活動全体の全体の活性化に寄与する。 ・国内の公立美術館への所蔵作品の貸与等に可能な限り取り組む。 ・所蔵作品等に関する調査研究の成果を多様な方法により積極的に公表する		成果実績	【作品の貸与】 平成21年度:貸出件数197件、貸出点数1,825点、 平成22年度:貸出件数189件、貸出点数1,318点、 平成23年度:貸出件数174件、貸出点数1,577点、 【映画フィルム等の貸与(東京国立近代美術館フィルムセンター)】 平成21年度:貸出件数82件、貸出点数242点、 平成22年度:貸出件数71件、貸出点数181点、 平成23年度:貸出件数80件、貸出点数168点、 【研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等発表、雑誌等論文掲載での発信】 平成21年度:展覧会図録38件、研究紀要3件、館ニュース33件、所蔵品目録1件、パンフレット・ガイド等18件、その他6件、学会等発表51件、雑誌等論文掲載63件 平成22年度:展覧会図録36件、研究紀要3件、館ニュース36件、所蔵品目録1件、パンフレット・ガイド等18件、その他9件、学会等発表48件、雑誌等論文掲載53件 平成23年度:展覧会図録28件、研究紀要3件、館ニュース37件、所蔵品目録2件、パンフレット・ガイド等16件、その他9件、学会等発表61件、雑誌等論文掲載79件			
	達成度	%	100%				

活動指標(中期計画)	単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
<p>○美術振興の中心的拠点としての多彩な活動展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展(所蔵作品展)は、各館の特色を十分に発揮したものとす</li> <li>・企画展は、研究成果に基づくとともに、海外の主要美術館との連携等に留意して実施する。 目標開催回数:第2期中期目標期間(平成18～22年度)は25～31回、第3期中期目標期間(平成23～27年度)は23～30回とする。</li> <li>・幅広い学習機会を提供し、年間の平均参加者数が前期中期目標期間の年間平均を上回るよう参加者数の増加に取り組む。 第1期中期目標期間(平成13年度～17年度)年間平均参加者数:15,307人 第2期中期目標期間(平成18年度～22年度)年間平均参加者数:44,847人</li> </ul>	<p>活動実績 平成21、22年度: 当初見込み(第1期平均) 平成23年度:当初見込み(第2期平均)</p>	<p>【所蔵作品展について】 東京国立近代美術館:本館では近代美術の流れが概観できるように展示し、工芸館では工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を行っている。 特に23年度は60周年記念企画による24年度の所蔵作品展リニューアルを見据え、年間大小合わせて23本もの特集を開催した。特に1年間継続した震災関連企画シリーズ「東北を思う」、1階企画展「ぬぐ絵画」と4-2階所蔵作品展(特集「ぬぐコレクション」等)の大規模なリンクなどは、特色ある新しい取組として新聞、雑誌上でも取り上げられ、一定の効果をえた。 京都国立近代美術館:23年度も引き続き、特定のテーマに沿った特集展示や企画展に関連した小企画展を所蔵作品展として開催した。 国立西洋美術館:松方コレクションを中心に、約200点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、西洋美術の流れが概観できる展示を行った。 23年度は、既に高い評価を得ている常設展示用の音声映像ガイドiPhone/iPod touch向けアプリケーション「Touch the Museum」を改善し、Android端末での利用が可能となるよう、さらなる普及に努めた。 国立国際美術館:我が国と世界の現代美術の新しい動向をわかりやすく展示するよう努めた。また、これまで展示する機会がなかった作品についてできる限り展示を行い、視野を広げるとともに、寄贈作品についても積極的に活用して展示構成を行った。 23年度も引き続き、企画展に併せて関連の作家、作品を展示したり、近年の収蔵品を中心に展示を構成するなど、創意、工夫を凝らした展覧会を開催した。 【企画展について】主な企画展(海外の主要美術館との連携による企画展、国際的に評価されている作家の企画展等) 平成21年度 開催回数:36回、入館者数:3,582,458人 平成22年度 開催回数:41回、入館者数:3,450,921人 平成23年度:開催回数:36回、入館者数:2,566,205人 ・5館共同企画展「『陰影礼讃-国立美術館コレクションによる』(平成22年9～10月) 東京国立近代美術館:「ゴーギャン展」(平成21年7月～9月)、「パウルクレー-おわらないアトリエ」(平成23年5月～7月) 京都国立近代美術館:「ボルゲーゼ美術館展」(平成21年10月～12月)、「ローマ追想-19世紀写真と旅」(平成22年5月～6月)、「視覚の実験室 ホモイ=ナジ/イン・モーション」(平成23年7月～9月) 国立西洋美術館:「ルーヴル美術館展-17世紀ヨーロッパ絵画-」(平成21年2月～平成22年6月)、「ナポリ・宮廷と美-カポディモンテ美術館展 ルネッサンスからバロックまで」(平成22年6月～9月)、「ブラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」(平成23年10月～平成24年1月) 国立国際美術館:「ループル美術館展 美の宮殿の子どもたち」(平成21年6月～9月)、「ルノワール-伝統と革新」(平成22年4月～6月)、「アンリ・サラ」(平成23年10月～平成23年12月) 国立新美術館:「THE ハブスブルク 華麗なる王家と美の巨匠たち」(平成21年9月～12月)、「オルセー美術館展2010「ポスト印象派」」(平成22年5月～8月)、「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション」(平成23年6月～9月) 【美術館における教育普及事業】 美術館における教育普及事業の重要性に鑑み、調査研究の成果に基づき、展覧会に合わせた講演会やシンポジウム等、美術の理解の促進・普及を目的とした取組を実施している。 ①幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等) 平成21年度 実施回数:766回、参加者数合計:52,354人 平成22年度 実施回数:667回、参加者数合計:41,183人 平成23年度 実施回数:671回、参加者数合計:51,653人 ②ボランティアによる教育普及事業 平成21年度 ボランティア登録者数:212人 ボランティア参加者数:1,444人 事業参加者数:8,229人 平成22年度 ボランティア登録者数:240人 ボランティア参加者数:1,756人 事業参加者数:9,777人 平成23年度 ボランティア登録者数:252人 ボランティア参加者数:1,528人 事業参加者数:12,385人 東京国立近代美術館:所蔵作品展内で作家が自作について語る「アーティスト・トーク」(平成17年度から)や同じく所蔵作品展内で特定のテーマに基づき研究員が語る「キュレーター・トーク」(平成18年度から)等を継続的に実施している。また、先生のための鑑賞講座では、平成23年度のクレー展から学校との具体的な連携事例の紹介も行い、学校と美術館との連携をより深める事業を展開した。 京都国立近代美術館:美術家教育学会、鑑賞教育研究プロジェクトとの共催により「2010美術科教育学会地区研究会(フォーラムin京都)美術鑑賞の問題-みる・つくる、そして状況-」(平成22年12月)などを行っている。 平成23年度は、平成23年3月から実施している友の会事業での1泊2日のツアーで、「夢とともに」展の開催にちなんで群馬・伊香保や榛名山を訪れるツアー等を実施した。また閉館後に小学生をもつ家族を対象としたわかりやすい解説付きの鑑賞ツアー「青木繁展 親子ナイトツアー」を実施した。</p>			<p>所蔵作品展 (展示)目標入館者数 (708,500人) 企画展 (企画上映)目標入館者数 (2,392,500人)</p>

<p>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</p>		<p>国立西洋美術館:「FUN DAY」においては、常設展に関連するプログラムに加え、建築に関連したツアーやトーク、版面のデモンストレーションなどを行っている。平成23年度に実施した「ファン・ウィズ・コレクション」は企画展(古代ギリシャ展)をテーマにして、円盤投げのデモンストレーションを含む講演会や子供対象のダンス・ワークショップなどを行った。</p> <p>国立国際美術館:新築移転5周年記念シンポジウムとして「絵画の時代—ゼロ年代の地平から」(平成22年1月)等を開催している。平成23年度から新たに美術館の活用法や子供による鑑賞の取組についての情報交換の場として「先生のための鑑賞ミーティング」を開催した。</p> <p>国立新美術館:美術雑誌の編集方針や編集にまつわるエピソードをシリーズで紹介した「講演会「シリーズ 美術雑誌と戦後美術—創り手たちの証言」」(平成22年2月以降6回開催)などを開催している。また平成23年度は、開館5周年を機に、ワークショップを記録し、2007年3月～2011年2月までの5年間に開催した29回のアーティスト・ワークショップの記録集を発行した。</p>	
<p>○ナショナルコレクションの形成・継承 ・以下に掲げる各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバラスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。</p> <p>1) 東京国立近代美術館:美術・工芸に関しては近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるよう収集する。映画フィルム等に関しては、残存するフィルムの収集に努める。</p> <p>2) 京都国立近代美術館:京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置く。</p> <p>3) 国立西洋美術館:松方コレクションを中心とした近代フランス美術等を収集する。</p> <p>4) 国立国際美術館:1945年以降の国内外の先進的な美術を中心に体系的に収集する。</p>	<p>活動実績</p> <p>平成21、22年度:当初見込み(第1期平均)</p> <p>平成23年度:当初見込み(第2期平均)</p> <p>1) 東京国立近代美術館:橋本真之(果樹園—果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実)(21年度)下村観山(唐茄子畑)(22年度)、ジョルジュ・ブラック《女のトルソ》(22年度)、マリアン・ネ・プラント《ティーセット》(22年度)、狩野芳崖の代表作《仁王捉鬼図》(23年度)などを収集した。フィルムセンターでは、ビネガーシンドロームや褪色の危険性が高い1950年代から60年代にかけての作品について、新東宝作品(21年度)、1954年に製作を再開した日活の初期作品(22年度)、中村登監督作品(23年度)等を収集した。</p> <p>2) 京都国立近代美術館:オディロン・ルドン《若き日の仏陀》(21年度)、ハンナ・ヘヒの代表作《Angst(不安)》(22年度)などを収集した。平成23年度は「川西英コレクション」の収蔵を完成させた。</p> <p>3) 国立西洋美術館:ジョルジュ・ブラック《静物》(21年度)、パニーニ・ジョヴァンニ・パオロ・パニーニ《古代建築と彫刻のカプリッチョ》(22年度)、ヴァン・デル・ヴェーク《聖母子と幼い洗礼者聖ヨハネ》(23年度)などを収集した。</p> <p>4) 国立国際美術館:荒川修作《抗生物質と子音にはさまれたアインシュタイン》(21年度)、ミハエル・ボレマンズ《Automat (3)》(22年度)、アンディ・ウォーホルの晩年の作品や、奈良美智の初期の絵画(平成23年度)などを収集した。</p>		—
<p>○美術活動全体の全体の活性化に寄与する。 ・所蔵作品について、その保存状態を動かしつつ、国内外の美術館・博物館等に対して貸与等を行う。 ・所蔵作品等に関する調査研究の成果を研究紀要、インターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>活動実績</p> <p>平成21、22年度:当初見込み(第1期平均)</p> <p>平成23年度:当初見込み(第2期平均)</p> <p>貸出先における展覧会計画の意義にも留意しつつ、自館における展示計画との調整や作品状況のチェック等を行った上で、所蔵作品の貸与等を実施した。</p> <p>【主な貸与先】</p> <p>東京国立近代美術館:古賀春江《海》他48点を「新しい神話が始まる。古賀春江の全貌」展(平成22年度/石橋美術館、神奈川県立近代美術館)などに貸与した。また東日本大震災の被災館への支援の一環として、作品輸送費(保険料含む)を負担し、萬鉄五郎「裸体美人」他4点を(平成23年度/岩手県立美術館)に貸与した。</p> <p>京都国立近代美術館:アンリ・マティス《鏡の前の青いドレス》を「大戦前のマティス」展(平成21年度/ティセン・ボルネミサ美術館)、などに貸与した。モンドリアンの作品をローマで開催された展覧会に貸与した。(平成23年度)</p> <p>国立西洋美術館:マドリードのティッセン美術館主催による「エロスの展」展および「モネと抽象」展(平成21年度)三菱一号館美術館の開館記念展「マネとモダン・パリ」(平成22年度)、宇都宮美術館の「カミーユ・ピサロと印象派」展(平成23年度)などに主要絵画作品を貸与した。</p> <p>国立国際美術館:リュック・タイマンズ《教会》を「Luc Tuymans」展(平成21～22年度/サンフランシスコ近代美術館、シカゴ現代美術館)などに貸与した。</p> <p>「The Steins Collect: Matisse, Picasso, and the Parisian Avant-Garde」展(平成23年度/サンフランシスコ近代美術館)などに依頼に応じて積極的に貸与した。</p> <p>【所蔵作品等に関する調査研究成果の発信】</p> <p>所蔵作品等に関する調査研究の成果について、継続的に、国立美術館各館における各展覧会の展示構成や図録等に反映されるとともに、学会等での発表や学術雑誌等での論文発表として発信されている。あわせて、所蔵作品等に関するセミナーやシンポジウムの開催等を行っている。</p> <p>各館の主な取り組みは下記のとおりである。</p> <p>東京国立近代美術館:東京国立近代美術館本館では、「ARLIS at 40—美術図書館協会(ARLIS)の活動の足跡とその出版物」をアート・ドキュメンテーション学会(平成22年10月)で発表した。「震災復興とMLA」を総務省 知のデジタルアーカイブに関する研究会(第3回)(平成23年6月)で発表した。</p> <p>東京国立近代美術館工芸館では、デザイン史学研究会(平成22年3月)で、「国井喜太郎の国有工芸論:1930年代における『日本的なもの』とモダンデザイン」を発表した。「大河内正敏と奥田誠—陶磁器研究会/彩壺会/東洋陶磁研究所—大正期を中心に—」を東洋陶磁学会第39回大会(平成23年11月)で発表した。東京国立近代美術館フィルムセンターでは、日本学術会議(平成22年1月)で、「映像アーカイブとメディア文化財の活用」について発表した。「失われた脚本・台本を求めて—文化リサイクルの意義」を脚本アーカイブス・シンポジウム(平成24年2月)で発表した。</p> <p>京都国立近代美術館:関西で初めて開催された明治美術学会(平成22年7月)で、「関西の近代美術事情 京都」を発表した。シンポジウム『美術フォーラム21』(平成23年11月)で「竹久夢二」を発表した。</p> <p>国立西洋美術館:『市場のための紙上美術館 19世紀フランス、画商たちの複製イメージ戦略』(平成21年6月、三才社刊)により当館研究員が第27回渋沢・クローデル賞・ルイ・ヴァイトンジャパン特別賞を受賞した。イタリアで開催された「Conferenza su ricerche vasariane a Camaldoli」(平成23年9月)で「Una tavola di "Cristo nell'orto" eseguita da Giorgio Vasari, conservata a Tokyo」を発表した。</p> <p>国立国際美術館:シンガポールで開催された第5回アジア次世代キュレーター会議において、「New Media Art in Curatorial Practice:Japanese New Media Art in Hanoi」を発表した。(平成21年11月6日)オーストラリアで開催された「Museums Australia Conference」(平成23年11月)で「Alternating Currents (Curating the Future — A Curatorial Symposium)」を発表した。</p> <p>国立新美術館:モスクワで開催されたシンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」(平成22年2月)において、日本の現代美術の状況を概観した「戦後日本の現代美術—その国際性をめぐって」を発表した。ハーヴァード大学で開催されたシンポジウムで「具体」(平成23年11月)を発表した。</p>		—

単位当たりコスト	—	算出根拠	—	
平成23・24年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由
	独立行政法人国立美術館運営費交付金	7,784 百万円	7,313 百万円	業務の効率化による減及び統合による経費の増
	計	7,784 百万円	7,313 百万円	
<b>事業所管部局による点検</b>				
	評価	項目	評価に関する説明	
目的・状況・予算	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	美術作品の収集保存、公開活用、美術に関する調査研究事業等については、広く国民のニーズがあり、優先度の高い事業として、ナショナルセンターとしての独立行政法人国立美術館が実施すべき事業である。	
	—	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。		
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。		
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	一般競争入札により支出先を選定しており、競争性の確保、単位あたりのコスト削減に努めている。また、契約手続にあたって、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	我が国美術館の中核的役割を果たすナショナルセンターとして、年度計画どおり事業が実施されており、着実に成果をあげていると認められる。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。		
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おおむね事業の目的に沿った事業運営がなされていると認められる。</li> <li>●我が国美術館のナショナルセンターとして、コレクションの充実にも努めていることは評価できる。</li> <li>●平成23年度の入館者数は、東日本大震災の影響があったにも関わらず、目標を上回っていることは評価できる。また、震災関連企画の展覧会を開催するなど、より意義のある展覧会の開催に努めていることは評価できる。</li> <li>●引き続き、業務運営の効率化を進めるとともに、自己収入等の積極的な確保が求められる。</li> </ul>			
<b>予算監視・効率化チームの所見</b>				
一部改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業評価の観点：本事業は、独立行政法人に対する運営費交付金の交付事業であり、事業の効率化の観点から検証を行った。</li> <li>2. 所見：これまでも業務運営の効率化に努めてきたところであるが、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」等を踏まえ、国の負担を増やさない形で事業の充実を図るべきである。</li> </ol>			
<b>上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</b>				
縮減	独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針(平成22年12月7日閣議決定)等を踏まえ、協賛金等の獲得や、キャンパスメンバーズの拡大、募金箱の設置等、継続して自己収入拡大のための取組を実施している。また、一般競争入札等による競争性、公平性、透明性を確保するため、公告期間を延長するなど、自己収入の拡大及びコスト縮減で、概算要求に▲282百万円反映した。			
<b>補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</b>				
関係する計画、通知等については以下を参照。 ○中期目標 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/dokuritu/chuuki/bijiyutu.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/dokuritu/chuuki/bijiyutu.htm</a> ○中期計画 <a href="http://www.artmuseums.go.jp/04/0403-3.pdf">http://www.artmuseums.go.jp/04/0403-3.pdf</a> (国立美術館HPへリンク) ○業務方法書 <a href="http://www.artmuseums.go.jp/04/0401.pdf">http://www.artmuseums.go.jp/04/0401.pdf</a> (国立美術館HPへリンク)				
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>				
平成22年行政事業レビュー	0466	平成23年行政事業レビュー	0384	

※平成23年度実績を記入

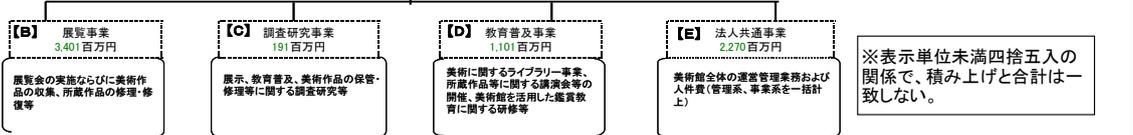
# 文化庁 5,973百万円

独立行政法人国立美術館に対し、その業務の財源に充てるために必要な金額を交付する。

〔交付〕

## 〔A〕 独立行政法人国立美術館 6,963百万円(運営費交付金部門)

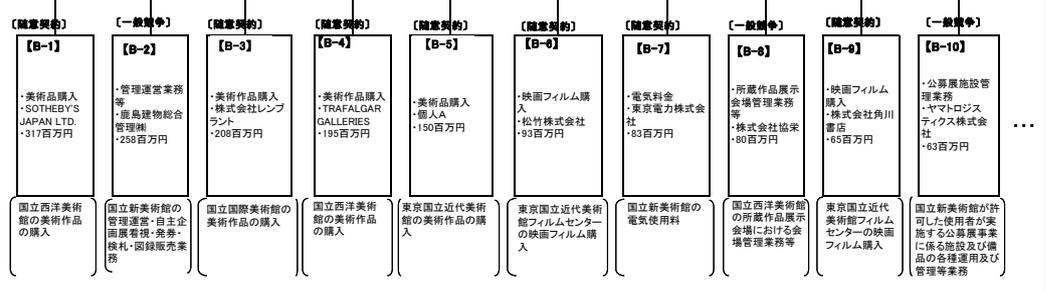
※〔A〕には、当該年度運営費交付金の執行分のほか、自己収入及び前年度以前の運営費交付金債務からの執行分も含む。



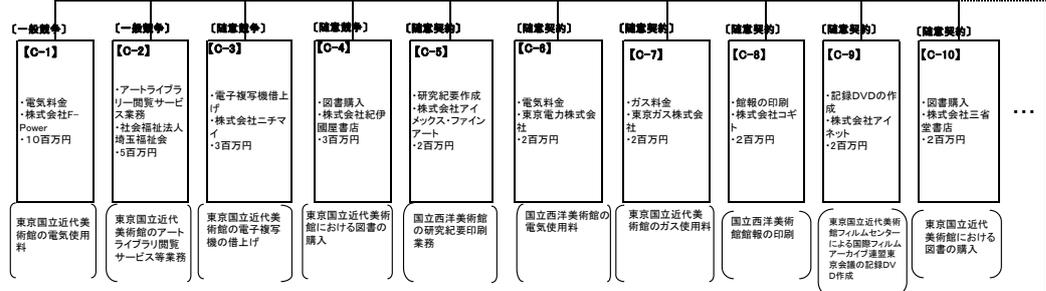
※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

### 〔B〕 展覧事業



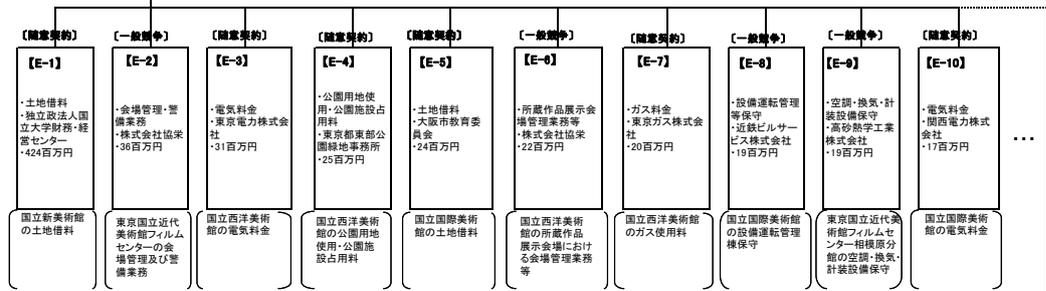
### 〔C〕 調査研究事業



### 〔D〕 教育普及事業



### 〔E〕 法人共通事業



費目・使途 <small>(「資金の流れ」            においてブロック            ごとに最大の金            額が支出されて            いる者について            記載する。使途            と費目の双方で            実情が分かるよ            うに記載)</small>	A.独立行政法人国立美術館			E.法人共通事業		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	事業費 (物件費)	所蔵品購入、光熱水料、会場管理業務等(内訳はB~Dを参照)	4,693	管理費 (物件費)	土地借料、建物管理業務、光熱水料、警備業務等	1,183
	管理費 (物件費)	土地借料、建物管理業務、光熱水料等	1,183	事業費 (人件費)	事業系人件費	746
	事業費 (人件費)	事業系人件費	746	一般管理費 (人件費)	管理系人件費	341
	一般管理費 (人件費)	管理系人件費	341			
	計		6,963	計		2,270
	B.展覧事業					
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	事業費 (物件費)	所蔵品購入、光熱水料、建物管理業務等	3,401			
計		3,401	計		0	
C.調査研究事業						
費目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)	
事業費 (物件費)	ライブラリ閲覧サービス業務、光熱水料、印刷製本費等	191				
計		191	計		0	
D.教育普及事業						
費目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)	
事業費 (物件費)	光熱水料、ライブラリ閲覧サービス業務等	1,101				
計		1,101	計		0	

B-1.SOTHEBY'S JAPAN LTD.			C-1.株式会社F-Power		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館の美術作品の購入	317	物品調達	東京国立近代美術館の電気使用料	10
計		317	計		10
B-2.鹿島建物総合管理株式会社			C-2.社会福祉法人埼玉福祉会		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館の管理運営・自主企画展着視・発券・検札・図録販売業務	258	役務	東京国立近代美術館のアートライブラリ閲覧サービス等業務	5
計		258	計		5
B-3.株式会社レンブランド			C-3.株式会社ニチマイ		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立国際美術館の美術作品の購入	208	物品調達	東京国立近代美術館の電子複写機の借上げ	3
計		208	計		3
B-4.TRAFALGAR GALLERIES			C-4.株式会社紀伊國屋書店		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館の美術作品の購入	195	物品調達	東京国立近代美術館における図書を購入	3
計		195	計		3
B-5.個人A			C-5.株式会社アイメックス・ファインアート		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	東京国立近代美術館の美術作品の購入	150	役務	国立西洋美術館の研究紀要印刷業務	2
計		150	計		2
B-6.松竹株式会社			C-6.東京電力株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	東京国立近代美術館フィルムセンターの映画フィルムの購入	93	物品調達	国立西洋美術館の電気使用料	2
計		93	計		2
B-7.東京電力株式会社			C-7.東京ガス株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の電気使用料	83	物品調達	東京国立近代美術館のガス使用料	2
計		83	計		2
B-8.株式会社協栄			C-8.株式会社コギト		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場における会場管理業務等	80	役務	国立西洋美術館の館報の印刷	2
計		80	計		2
B-9.株式会社角川書店			C-9.株式会社アイネット		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	東京国立近代美術館フィルムセンターの映画フィルム購入	65	役務	東京国立近代美術館フィルムセンターにおける国際フィルムアーカイブ連盟東京会議の記録DVD作成	2
計		65	計		2
B-10.ヤマトロジスティクス株式会社			C-10.株式会社三省堂書店		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館が許可した使用者が実施する公募展事業に係る施設及び備品の各種運用及び管理	63	物品調達	東京国立近代美術館における図書を購入	2
計		63	計		2

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。使途と費目  
 の双方で実情が  
 分かるように記載)

D-1.鹿島建物総合管理株式会社			E-1.独立行政法人国立大学法人財務・経営センター		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館の管理運営・保存建物監視業務	224	賃貸借	国立新美術館の土地借料	424
計		224	計		424
D-2.東京電力株式会社			E-2.株式会社協栄		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の電気使用料	82	役務	東京国立近代美術館フィルムセンターの会場管理及び警備業務	36
計		82	計		36
D-3.東京ガス株式会社			E-3.東京電力株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館のガス使用料	39	物品調達	国立西洋美術館の電気使用料	31
計		39	計		31
D-4.NECフィールディング株式会社			E-4.東京都東部公園緑地事務所		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館の電話システムの入替・更新作業	19	賃貸借	国立西洋美術館の公園用地使用・公園施設占用料	25
計		19	計		25
D-5.株式会社インターネットイニシアティブ			E-5.大阪市教育委員会		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	独立行政法人国立美術館インターネット接続・拠点間接続回線等提供業務	18	賃貸借	国立国際美術館の土地借料	24
計		18	計		24
D-6.社会福祉法人埼玉福祉会			E-6.株式会社協栄		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館のアートライブラリー閲覧受付等業務	18	役務	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場における会場管理業務等	22
計		18	計		22
D-7.鹿島建物総合管理株式会社			E-7.東京ガス株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館の展示室の空調設備点検・部品交換	15	物品調達	国立西洋美術館のガス使用料	20
計		15	計		20
D-8.株式会社印象社			E-8.近鉄ビルサービス株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	東京国立近代美術館フィルムセンターNFCカレンダー等の作成	14	役務	国立国際美術館の設備運転管理機保守	19
計		14	計		19
D-9.東京都水道局			E-9.高砂熱学工業株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の上下水道使用料	14	役務	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の空調・換気・計装設備保守	19
計		14	計		19
D-10.鹿島建物総合管理株式会社			E-10.関西電力株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館のスクリーナラー圧縮機の部品交換	13	物品調達	国立国際美術館の電気使用料	17
計		13	計		17

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。使途と費目  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

支出先上位10者リスト

B.展覧事業

	支出先	業務概要	支出額	入札者数	落札率
1	SOTHEBY'S JAPAN LTD.	国立西洋美術館の美術作品の購入	317	随意契約	—
2	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館の管理運営・自主企画展覧・発券・検札・図録販売業務	258	2	94.3%
3	株式会社レムブラント	国立国際美術館の美術作品の購入	208	随意契約	—
4	TRAFALGAR GALLERIES	国立西洋美術館の美術作品の購入	195	随意契約	—
5	個人A	東京国立近代美術館の美術作品の購入	150	随意契約	—
6	松竹株式会社	東京国立近代美術館フィルムセンターの映画フィルムの購入	93	随意契約	—
7	東京電力株式会社	国立新美術館の電気使用料	83	随意契約	—
8	株式会社協栄	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場管理業務	80	4	93.0%
9	株式会社角川書店	東京国立近代美術館フィルムセンターの映画フィルムの購入	65	随意契約	—
10	ヤマトロジスティクス株式会社	国立新美術館が許可した使用者が実施する公募展事業に係る施設及び備品の各種運用及び管理等業務	63	1	95.1%

C.調査研究事業

	支出先	業務概要	支出額	入札者数	落札率
1	株式会社F-Power	東京国立近代美術館の電気使用料	10	3	92.4%
2	社会福祉法人埼玉福祉会	東京国立近代美術館のアートライブラリー閲覧サービス等業務	5	3	95.5%
3	株式会社ニチマイ	東京国立近代美術館の電子複写機の借上げ	3	随意契約	—
4	株式会社紀伊国屋書店	東京国立近代美術館の図書の購入	3	随意契約	—
5	株式会社アイメックス・ファインアート	国立西洋美術館の研究紀要印刷業務	2	随意契約	—
6	東京電力株式会社	国立西洋美術館の電気使用料	2	随意契約	—
7	東京ガス株式会社	東京国立近代美術館のガス使用料	2	随意契約	—
8	株式会社コギト	国立西洋美術館の館報の印刷	2	随意契約	—
9	株式会社アイネット	東京国立近代美術館フィルムセンターにおける国際フィルムアーカイブ連盟東京会議の記録DVD作成	2	随意契約	—
10	株式会社三省堂書店	東京国立近代美術館の図書の購入	2	随意契約	—

D.教育普及事業

	支出先	業務概要	支出額	入札者数	落札率
1	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館の管理運営・保存建物監視業務	224	2	94.3%
2	東京電力株式会社	国立新美術館の電気使用料	82	随意契約	—
3	東京ガス株式会社	国立新美術館のガス使用料	39	1	94.4%
4	NECフィールディング株式会社	国立新美術館の電話システムの入替・更新作業	19	3	80.0%
5	株式会社インターネットイニシアティブ	独立行政法人国立美術館インターネット接続・拠点間接続回線等提供業務	18	随意契約	—
6	社会福祉法人埼玉福祉会	国立新美術館のアートライブラリー閲覧受付等管理業務	18	2	93.8%
7	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館の展示室の空調設備の点検・部品交換	15	1	99.2%
8	株式会社印象社	東京国立近代美術館フィルムセンターNFCカレンダー等の作成	14	随意契約	—
9	東京都水道局	国立新美術館の上下水道使用料	14	随意契約	—
10	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館のスクリーチャー圧縮機の部品交換	13	1	98.5%

E.法人共通事業

	支出先	業務概要	支出額	入札者数	落札率
1	独立行政法人国立大学財務・経営センター	国立新美術館の土地借料	424	随意契約	—
2	株式会社協栄	東京国立近代美術館フィルムセンターの会場管理及び警備業務	36	1	95.2%
3	東京電力株式会社	国立西洋美術館の電気使用料	31	随意契約	—
4	東京都東部公園緑地事務所	国立西洋美術館の公園用地使用・公園施設占用料	25	随意契約	—
5	大阪市教育委員会	国立国際美術館の土地借料	24	随意契約	—
6	株式会社協栄	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場の管理業務等	22	4	93.0%
7	東京ガス株式会社	国立西洋美術館のガス使用料	20	随意契約	—
8	近鉄ビルサービス株式会社	国立国際美術館の設備運転管理等保守	19	3	98.6%
9	高砂熱学工業株式会社	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の空調・換気・計装設備保守	19	1	92.6%
10	関西電力株式会社	国立国際美術館の電気使用料	17	随意契約	—